

第13回

淡海の川づくりフォーラム

プログラム & 選考用資料



日時：令和3年(2021年)2月7日(日) 9:45~16:00 (受付 9:20 より)

場所：オンラインによる開催(サテライト会場:滋賀県危機管理センター1階会議室)

主催：淡海の川づくりフォーラム実行委員会/滋賀県

後援：滋賀県河港・砂防協会、マザーレイクフォーラム運営委員会

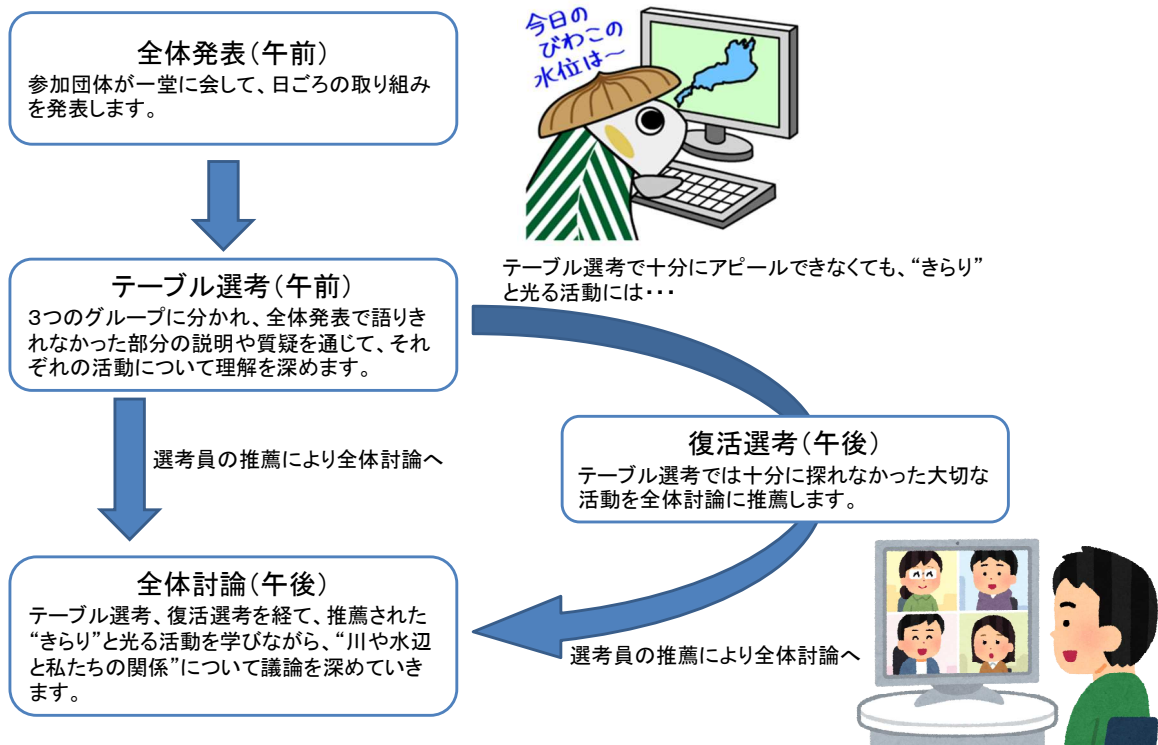
目次

1. 淡海の川づくりフォーラムの概要.....	1
2. 大会プログラム.....	2
3. 公開選考会の進め方・選考基準、表彰について.....	3
(1) 「公開選考会」の意味.....	3
(2) 公開選考会の進め方について.....	3
(3) 選考基準.....	5
(4) ポスターセッション (WEB).....	5
(5) 表彰.....	6
4. 参加団体一覧・テーブル.....	7
5. テーブル別各団体活動位置図.....	8
6. テーブル選考 選考員プロフィール (五十音順).....	10
テーブルA.....	10
テーブルB.....	11
テーブルC.....	12
7. 全体討論 選考員.....	13
8. 総合コーディネーター・グラフィックファシリテーター&実行委員会.....	14
9. 参加団体活動概要.....	16
A-1 滋賀県立大学 瀧研究室 (球磨川).....	16
A-2 NPO法人瀬田川リバプレ隊.....	18
A-3 滋賀大学「環境学習支援士」会.....	20
A-4 Biwacompass.....	22
A-5 河川管理パートナーの会.....	24
A-6 玉ーアクアリウム.....	26
B-1 TANAKAMI こども環境クラブ.....	28
B-2 米川を歩く会.....	30
B-3 NPO 法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA).....	32
B-4 瀬田川ベース.....	34
B-5 日本河川・流域再生ネットワーク.....	36
C-1 淡海を守る釣り人の会.....	38
C-2 滋賀県立大学 瀧研究室 (美山川).....	40
C-3 小さな自然再生ネットワーク.....	42
C-4 新大宮を美しくする会.....	44
C-5 家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト.....	46
10. 日本一のびわ湖を守るご当地キャラ三人衆 (五十音順).....	48
MEMO 欄.....	48
.....

1. 淡海の川づくりフォーラムの概要

淡海の川づくりフォーラムでは、“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水辺と私たちのいい関係”について、川や水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに、公開選考方式のワークショップを通じて、それぞれの交流の中で議論を深め、探ります。

- 日時：令和3年（2021年）2月7日（日）9:45～16:00
- 開催方式：オンライン開催（WEB：zoom）
※一部団体・選考員は、サテライト会場（滋賀県危機管理センター）からの現地参加
オンラインによる一般参加（聴講）も可能
Youtube Live!によるライブ配信も実施（URL：<https://youtu.be/ViFjpEe690I>）
- 主催：淡海の川づくりフォーラム実行委員会／滋賀県
- 後援：滋賀県河港・砂防協会、マザーレイクフォーラム運営委員会



淡海の川づくりフォーラムは、マザーレイク 21 計画に基づくマザーレイクフォーラムとの連携事業です。



淡海の川づくりフォーラムは、滋賀県流域治水条例第 34 条に基づく県民相互の連携の支援事業です。



2. 大会プログラム

時間	内 容	
9:15 9:45	○受付 ○選考委員・事務局ミーティング（進め方、選考方法等）	
9:45 10:00	○開会、ガイダンス 開会宣言を行い、その後1日の流れを説明します。	
10:00 11:00	○全体発表 参加全団体による活動発表（発表時間各3分）	
11:00 12:00	○テーブル選考 Zoomの「ブレイクアウトルーム」機能により 3つのテーブルに分かれて選考を行います。 ・発表者と選考員とで議論を深め、全体討論に推薦する“いち押し”の活動を選考します。（テーブルごとに2団体） ・ここで推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。	
12:00 12:20	○テーブル選考結果報告・推薦団体発表 各テーブルの議論の報告と全体選考へ推薦された団体（計6団体）を発表します。	
12:20 13:20	○お昼休憩 ○復活選考（ポスターセッション） ・以下URL、facebookページに各団体の活動内容を掲載し（本プログラムのP16～47に掲載）、全体選考員による復活選考を行います。 県ホームページ： https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kendoseibi/kasenkoan/19480.html facebook：「淡海の川づくりフォーラム」ページ https://facebook.com/ShigaRiverForum/ ・参加者全員で、応援したい！活動に「メッセージ」や「コメント」、「いいね！」を贈ります。	
13:20 13:30	○復活選考の結果発表 復活選考から全体討論に進むのは3団体です。	
13:30 15:15	○全体討論（適宜休憩をはさみます） 1)各団体2分間で活動内容を発表、その後、全団体への質疑応答。 2)選考員・コメンテーターを中心に、明日からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動”について、参加者全員でさらに議論を深めていきます。	

15:15	
	休憩
15:30	
15:30	○まとめとふりかえり
	グラフィックファシリテーション、キーワードにより、今年の淡海の川づくりフォーラムの議論をふりかえります。
16:00	○各賞の発表・表彰式
	1)「グランプリ」・「準グランプリ」の表彰
	2)「山紫水明賞」、「マザーレイクフォーラム賞」の表彰
	3)「応援の花咲いた賞」の表彰

3. 公開選考会の進め方・選考基準、表彰について

(1) 「公開選考会」の意味

- 淡海の川づくりフォーラムは、公開選考会という仕組みを使って、“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水辺と私たちのいい関係”について考えることが目的です・・・受賞団体の選考は、手段であって目的ではありません。
- お互いの発表を聞き、選考員や参加の皆さんそれぞれの視点を通して、活動の「よいとこさがし」をしてください。
- 16 ページから、今回参加の皆さまの活動概要を掲載しています。ページの下側に、「よいとこ探しキーワード メモ」の欄を設けています。ぜひ、「よいとこキーワード」をメモして、議論に参加してください。
- 質疑応答や討論時間を使って行われる「よいとこさがし」は、“川や水辺と私たちのいい関係”について考えを深める時間です。
- 今年は「オンライン開催」となりますが、プログラムの流れは例年と同じスタイルで考えています。初めての試みで慣れない面もありますが、オンラインならではの気づき、良さをみんなで探り合いましょう。

(2) 公開選考会の進め方について

- 選考会は、全体発表→テーブル選考→復活選考→全体選考(公開討論会)→表彰の順番で進めていきます。
- 全体発表は、参加団体が一堂に会して、日ごろの取り組みを発表します。全体発表は1団体3分とし、質疑は行いません。
- テーブル選考は3グループ、1テーブル5または6団体に分かれ、全体発表で語りきれなかった部分の説明や質疑を通じて、それぞれの活動について理解を深めます。発表者と選考員とで議論を深め、全体討論に推薦する“いち押し”の活動を選考します。(テーブルごとに2団体)

- 全体発表終了後、Zoomの「ブレイクアウトルーム」機能を使って、事務局ホストにより、発表団体・テーブル選考員のみなさんを各テーブルの小部屋に振り分けをします。（テーブルAはメインセッションのまま）
- 全体選考員、一般聴講の方は、テーブル選考の時間は各テーブル間を自由に移動ができます。

テーブル	テーブル選考会場
テーブルA	メインセッション
テーブルB	ブレイクアウトルーム「テーブルB」
テーブルC	ブレイクアウトルーム「テーブルC」

- テーブル選考で推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。復活選考については、WEB上（県ホームページ（プログラムに掲載）、facebook ページ）に各団体の活動内容を掲示し、選考員に見てもらいます。復活選考から全体討論に進むのは3団体です。
- 全体選考に進んだ団体は、再度、メインセッションで発表をしていただきます。（各団体発表時間2分間、その後、全団体への質疑応答）
- 選考員・コメンテーターを中心に、明日からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動”について、参加者全員でさらに議論を深めていきます。
- 選考員は、自らも発表者から情報を得たり、学んだりする姿勢を持ちながら参加者と一緒に“川や水辺と私たちの共生”、“川や水辺と私たちのいい関係”とは何かを探求する立場にあります。議論や選考は、後戻りや批判をすることなく、創造的に深めていくことを心がけてください。
- 全体選考の議論は「グラフィックファシリテーション」「ホワイトボードレコーディング」により、「リアルタイム」で議論の「見える化」を行い、zoomで共有します。



(3) 選考基準

- 伝統的な文化と新しい文化が出会い融合する湖国滋賀にふさわしい“川や水辺と私たちの共生”、“川や水辺と私たちとのいい関係”を探ります。
- 内容の長所を評価する加点方式とし、短所は減点の対象としません。
- 公開選考会は、以下の4つのポイントにおいて総合評価します。

- 1) 発想・着眼評価：“川や水辺と私たちのいい関係”をめざすための斬新な発想や着眼、的確な視点についての評価
例えば…
 - ・この発想はなかった！
 - ・やれるところからやりはじめているのが、イイね！ など
- 2) 関わり評価：地域住民と水辺との豊かで良好な関わり合いについての評価
例えば…
 - ・水辺が地域を元気にするね！
 - ・継続は力だ！ など
- 3) プロセス評価：市民・住民参加や、さまざまな分野の人たちとの協働のプロセスについての評価
例えば…
 - ・え、そんな人たちも参加しているんだ！
 - ・その連携は面白い！ など
- 4) 計画・技術評価：“川や水辺と私たちの共生”のために工夫された計画手法や採用技術についての評価
例えば…
 - ・そんなことが出来るんだ！
 - ・すこしの工夫でずいぶん違うね～！ など



(4) 復活選考（ポスターセッション）（WEB）

- 復活選考は、「ポスターセッション」をWeb上の画像を見ることで行います。
- 各団体の活動内容（画像）については、本プログラムP16～P47でもご覧いただけます。
- WEB（ホームページ、facebook）上に掲載している各団体の活動内容を見て、応援したい！と思われる活動に、いいね！やメッセージを贈りましょう！
- Facebookへのコメントだけでなく、メール（ha04@pref.shiga.lg.jp）、Zoomのチャット、YouTubeLiveのコメント、どのツールでもいいので、メッセージを贈ってください。団体の活動の励みになります。

(5) 表彰

【グランプリ・準グランプリ】

- 上記の選考基準により、審査する時点の流域・地域の情勢も踏まえ、“水辺と私たちの共生”、“水辺と私たちのいい関係”のモデルとなる活動を選考します。
- 上記の選考基準により、仲間たちに希望を与える活動を選考します。

【山紫水明賞（河港・砂防協会賞）】

- 上記の選考基準とは別の視点から、今後の淡海のいい川づくり・いい湖づくりの（事業）推進に向けて貢献する活動を選考します。
- テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

【マザーレイクフォーラム賞】

- 上記の選考基準とは別の視点から、マザーレイクゴールズ（MLGs）の目標達成に向けて貢献する活動を選考します。
- テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

【応援の花咲いた賞】

- 上記選考基準とは別に、WEB（ホームページ、facebook）上に掲載した各団体の活動内容について、参加者のメッセージが一番多かった団体を表彰します。
- 全ての参加団体が受賞の候補となります。
- 他の賞と重複して受賞する可能性もあります。

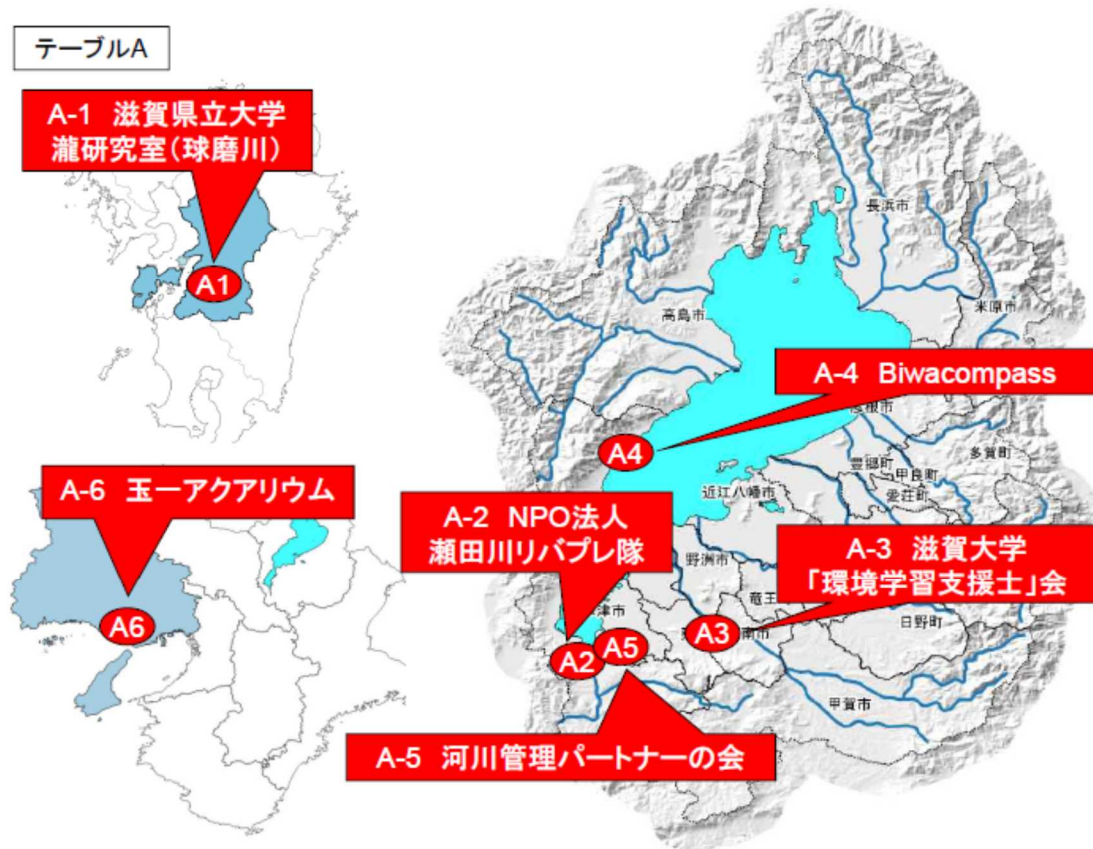
4. 参加団体一覧・テーブル

●全体発表はA-1から順番に行います。

テーブル	グループ名	湖沼・河川・活動地域等	活動内容
テーブルA	A-1 滋賀県立大学 瀧研究室（球磨川）	球磨川（熊本県八代市～ 水上村）	寄り添い型ヒアリング調査
	A-2 NPO法人 瀬田川リバプレ隊	高橋川、瀬田川の一部 （大津市）	河川の清掃活動、市民会議・現地 見学会、水質調査、ヨシ刈りなど
	A-3 滋賀大学 「環境学習支援士」会	栗東市 金勝山 「森の未来館」周辺 （一級河川 金勝川）	小学四年生体験学習「やまのこ」 事前・事後学習の出前授業
	A-4 Biwacompass	大津市北比良付近の湖岸	琵琶湖・河川に関する様々な課 題を楽しく解決
	A-5 河川管理パートナーの会	一級河川長沢川、狼川、 千丈川、国分川、高橋 川、篠部川（各河川の起 点から河口までの区域）	担当河川の状況、護岸、周辺環 境、不法投棄・ごみ等を巡視によ り発見・把握し報告する。
	A-6 玉ーアクアリウム	明石川 （神戸市西区玉津町）	明石川の生物多様性保全活動
テーブルB	B-1 TANAKAMI こども環境クラブ	大戸川 天神川	P28 参照
	B-2 米川を歩く会	米川 （長浜市中心市街地）	米川を活かしたまちづくり
	B-3 NPO 法人国際ボランティア 学生協会 (IVUSA)	一級河川 琵琶湖・瀬田 川・鴨川（淀川水系）（長 浜・守山・大津・京都市）	特定外来生物オオバナミズキン バイの除去活動・啓発活動
	B-4 瀬田川ベース	瀬田川	河川にまつわる地域の歴史や人 との関わりを記録し、伝える活 動をしています。
	B-5 日本河川・流域再生ネット ワーク	日本全国	川づくりの普及活動

C-1	淡海を守る釣り人の会	守山市 今浜町	清掃活動・小さな自然再生
C-2	滋賀県立大学 瀧研究室（美山川）	京都府南丹市美山町 芦生自然学校	小さな自然再生（バード工造り）
C-3	小さな自然再生ネットワー ク	中ノ井川、蛇が池 （栗東市大宝神社付近）	蛇が池を憩いの場、ビオトープ として再生する
C-4	新大宮川を美しくする会	新大宮川（一級河川大宮 川（放水路）・足洗川） （大津市比叡辻）	P44 参照
C-5	家棟川・童子川・中ノ池川 にビワマスを戻すプロジェ クト	家棟川 （野洲市）	ビワマスが遡上、産卵、繁殖でき る環境の整備
計		16 団体	

5. テーブル別各団体活動位置図



テーブルB

B-5 日本河川・流域再生
ネットワーク

B-2 米川を歩く会

B-3 NPO法人国際ボラン
ティア学生協会 (IVUSA)

B-4 瀬田川ベース

B-1 TANAKAMIこども環境クラブ

テーブルC

C-2 滋賀県立大学
瀧研究室(美山川)

C-1 淡海を守る釣り人の会

C-5 家棟川・童子川・
中ノ池川にピワマスを
戻すプロジェクト

C-3 小さな自然再生ネット
ワーク

C-4 新大宮川を美しくする会

6. テーブル

選考 選考員プロフィール

テーブルA

(テーブル・コーディネーター)



(選考員)

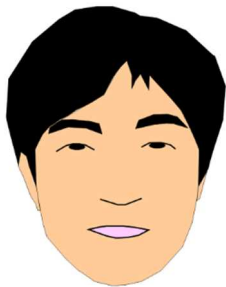
北村 美香 (きたむら みか) / 治水利水から学ぶ・楽しむ実行委員会 / 結 creation

京都市生まれ。学生時代の遊び場だった琵琶湖のことをもっと知りたいと思い、研究の場に琵琶湖博物館を選ぶ。川や生き物に夢中になっている人たちを観察しているときや、地域の大先輩たちに体験談を聞かせていただいているときが一番楽しい時間。

学芸員としての経験を活かし、人と地域と博物館、暮らしと自然をつなげるお手伝いをしている。

草野 充 (くさの たかし) / 県水産試験場漁場保全係 主任技師

琵琶湖産二枚貝類の増殖と調査を担当しています。休日の楽しみ：カヤックにのって魚釣りをすること。



小丸 和恵 (こまる かずえ) / NPO 法人子どもと川とまちのフォーラム 理事

大阪府生まれ、愛媛県と京都府育ち。びわ湖に呼び寄せられて滋賀へ。川や湖、里山など自然に親しむ場を提供する「子どもと川とまちのフォーラム」の活動を続けて、約20年。長年のフィールド京都と滋賀をつなぐ役割を担えればと願っている。3・11後の暮らし方を提案する「あるもん (自然素材・リサイクル・地産地消・自然治癒力)」を大切に暮らす「arumonde 暮らしを楽しむ会」も主宰し、暮らしを楽しむ集いの企画や被災地からの避難ママたちの活動のサポート等も行っている。



藤田 知丈 (ふじた ともたけ) / 暮らシフト研究所 (MLF)

島根県八雲村、ホタルやカワセミが飛び交う意宇川沿い (中海の源流域) の家で川ガキ・山ガキとして育つ。大学時代にびわ湖と出逢い、そのまま滋賀に定住。建設コンサル、指定管理、NPO等の仕事を経て独立し、姉川源流の古民家に移住して「暮らシフト研究所」を設立。得意分野は情報デザイン、地域プロデュース、映像製作など。

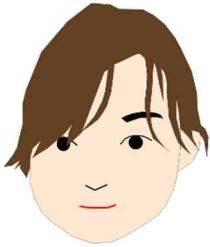
マザーレイクフォーラム運営委員、東草野まちづくり懇話会事務局、NPO 法人碧いびわ湖理事ほか。



テーブル B

(テーブル・コーディネーター)

竜王 みやび(りゅうおう みやび) / 山内エコクラブ



(選考員)

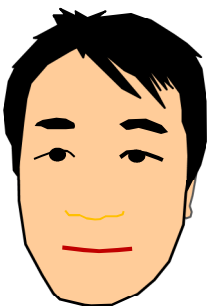
滋賀県甲賀市出身。小学5年生のころから地域の水文化をテーマに山内エコクラブで活動。現在は大学で文化情報学を専攻中、大学4年生。将来は小学校教員になる(つもり)。特技の付け焼刃はたまに傷にも…。趣味はカラオケと少しのバイオリン演奏。

浅野 悟史(あさの さとし) / 京都大学大学院地球環境学 助教



専門は地域計画学・環境農学。人間がつかうことで維持されてきた環境について、そこに住むひとの暮らしと生きものの関係の視点から研究している。

石山 基(いしやま もと) / 大津土木事務所 次長



滋賀県大津市生まれ、琵琶湖岸の風景を見て育つ。

滋賀県に入庁後、河川法改正の頃より河川に関わる職場に多く在籍。数度の「川づくり会議」の事務局運営にも携わりながら、住民との「合意形成」の現場を経験する。時期を同じくして始まった、「いい川・いい川づくりワークショップ」や「淡海の川づくりフォーラム」にも参加、以来そのフォーマットをこよなく愛している。

三和 伸彦(みわ のぶひこ) (時々Cozy Miwa※) / 琵琶湖保全再生課 技監



滋賀県生まれ。少年時代、環境問題に関心を持ったことをきっかけに滋賀県の化学技術職に。県庁ではずっと環境行政を担当。

プライベートでは、湖北のタウン誌「長浜み～な」のライター兼編集スタッフとしてふるさとの再発見をライフワークに活動中。

※高校時代に聴いた Cozy Powell のドラミングに衝撃を受け、以来、細々ながら音楽活動を継続中。

テーブルC

(テーブル・コーディネーター)

佐々木 和之(ささき かずゆき) / 水色舎 (MLF)



(選考員)

小二の時に東京世田谷のコンクリート三面張りの川で遊んだことが川での原体験。小五から日本野鳥の会の会員になり、川や公園で野鳥観察するようになる。中高時代は野鳥の生息環境が失われる開発もあり、開発する／しないの二択だけではなく、どのように調整したら少しでも生息環境が残せるのかを考えるようになった。滋賀県立大時代から、市民の想いを反映した川づくりに向けた、住民と行政との連繋手法がテーマ。川の風景づくりを目指して洗堰レトロカフェを開催。

近藤 美麻(こんどう みお) / 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所



愛知県名古屋市生まれ。小さな頃から生物好きで、次第に生物と生物がすむ環境、人との関わりに興味を持つようになり、大学では水田地帯の生物(とくに淡水二枚貝)を対象に研究を行い、農業との共存について考えていました。現在は大阪府立 生物多様性センターに勤務し、府内の水辺にすむ生物たちの調査研究や、生物多様性の普及啓発、環境教育を担当しています。水辺やそこにすむ生物たちの魅力を、一人でも多くの人に伝えていきたいです。

菅原 芳明(すがはら よしあき) / 大津・南部農業農村振興事務所田園振興課 副主幹



福井県生まれ。日本海を見て育つも、両親が生まれ育った滋賀に愛着を持ち、滋賀県に入庁。入庁後、農業を営む上で必要な施設の整備(用水路等)や棚田保全、湖魚が産卵・成育できる水田環境を取り戻す「魚のゆりかご水田プロジェクト」等を担当するとともに、「環境こだわり農業の推進」「不法投棄対策」「地域活性化を目指した自転車(ビワイチ)の活用」にも携わる。日々、趣味であるサイクリングを通じて、地域の「自然や文化」「食」を楽しみながら、多くの方々との出会いに「感謝」している。

藤田 喜世隆(ふじた きよたか) / 流域政策局 局長



滋賀県彦根市生まれ。昭和 60 年に滋賀県に土木技師として採用される。入庁して約 20 年は下水道一筋で流域下水道の整備や処理に携わる。最下位グループだった下水道普及率が今では全国 7 位、まさに隔世の感です。河川事業は 40 代半ばから携わり、平成 26 年から流域治水政策室で河川整備計画や水害に強い地域づくりなどを担当、令和 2 年から流域政策局長。地域にとって、安全・安心、愛される川づくりを目指します。

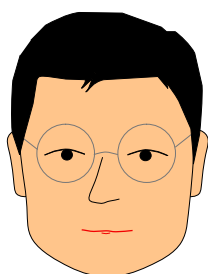
7. 全体討論 選考員



朴 恵淑（ぱく けいしゅく）／三重大学人文学部・地域イノベーション学 学研究科教授、三重大学地域 ECO システム研究センター長

1954 年韓国ソウル生まれ。日韓の架け橋として、大気汚染や地球温暖化、水環境保全、環境教育に関わっています。3・11の東日本大震災により、環境の大切さに気づき、絆の素晴らしさに気づき、未来に希望をつなぐことに皆、必死で取り組んでいます。

「淡海の川づくりフォーラム」が、青いゴールドと呼ばれる水資源や水環境の大切さに気づき、日本を動かす大きなムーブメントとなれるよう、頑張ります。



福廣 勝介（ふくひろ しょうすけ）／NPO法人 近畿水の塾 理事長

UR 都市機構、および関連社で、団地の屋外環境の計画設計、管理担当を四十数年。他団体、住民さんとの協働仕事、イベント多数。標榜してきたのは「地域の緑に就職する」。一方、川好き。傷められている川を憂い、川の住民活動に参加。現在、NPO法人「近畿水の塾」代表理事、「川の会・名張」代表、NPO法人「全国水環境交流会」理事。昭和24年、三重県伊賀（名張市）に生まれ、爾来、大部分、名張住まい。関心事は、林学。山・川・人との付き合い。自然復元。団地故郷作り。脱近代。



辻 博子（つじ ひろこ）／(一社)滋賀グリーン活動ネットワーク (SGN) 事務局長 (MLF)

新潟県生まれ。SGN の活動を通して、環境に配慮した消費行動『グリーン購入』を事業者や市民に広げています。グリーン購入には「環境に配慮した商品・サービスを買う」だけでなく「環境保全に熱心な事業者から買う」という意味もあるので、そうした熱心な事業者さんの活動を応援し、滋賀県産の環境配慮商品の市場を拡大するにはどうすれば良いか、日々考えています。

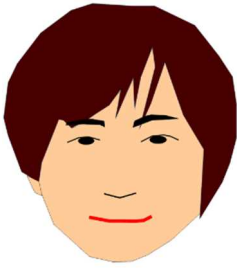
また、CO2 ネットゼロムーブメントを進める「しがローカル SDGs 研究会」や「地域エネルギー研究会」としても活動しています。



原田 守啓（はらだ もりひろ）／岐阜大学流域圏科学研究センター 准教授

民間建設コンサルタント会社、独立行政法人土木研究所自然共生研究センター専門研究員を経て、2014 年より現在まで岐阜大学流域圏科学研究センター准教授、2020 年 2 月より岐阜大学高等研究院地域環境変動適応研究センター長を務める。河川とその流域を対象に、土砂水理学・河川工学と河川生態学の学際分野での研究活動に取り組んでいます。水辺の小さな自然再生の取り組みを応援しています！

堺 かなえ（さかい かなえ）／いい川・いい川づくりワークショップ事務局

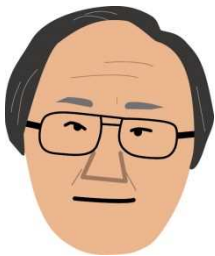


NPO法人全国水環境交流会（理事・事務局）、NPO法人多摩川センター（事務局）、「川の日」ワークショップ（1998～2007）、「いい川」・「いい川づくり」ワークショップ（2008～）実行委員会事務局。通算 22 回を数えるワークショップに裏方として関わり、多くの出会い、つながりをもたらしてきました。2019 年の第 22 回いい川・いい川づくりワークショップ in 滋賀・京都大会で、「淡海の川づくりフォーラム」という場で培われてきた関係性や志に触れ、今回の参加を楽しみにしてきました。どうぞよろしく申し上げます。

8. 総合コーディネーター・グラフィックファシリテーター&実行委員会

（総合コーディネーター）

中谷 恵剛（なかに けいごう）／瀬田川リバブレ隊



瀬田の生まれ。川が好き。味噌汁といえばシジミ、モロコの素焼き+酢味噌またはショウガ醤油、ギギの蒲焼き、鮎の塩焼き、フナズシなどなど食いしん坊なことも、水辺の環境を守る第 1 歩かなんてことを思いつつ、水を知るには上流からとすることで源流付近（源流までは体力的に厳しい）の探訪などしております。

（グラフィックファシリテーター）

あるがゆう



京都女子大学家政学部生活造形学科意匠専攻卒業。
グラフィックレコーディングを研究。半年で 100 以上の現場でペンを持ち、卒業論文にまとめる。役所、内閣官房主催の対話の場や、中小企業や大手飲料メーカーの研修などで経験を積む。

現在は東京の情報コミュニケーション支援企業にて働きながら、グラフィックファシリテーターとして活動中

(実行委員会)

委員長



北井 香(きたい かおり) / NPO 法人木野環境 理事

県内の農山村を中心にいくつかの活動にスタッフなどの立場で関わっています。地域の良さを前向きに活かして、活動・発信・取組みを応援したい。現職は滋賀県立大学 特定プロジェクト研究員。2009年に流域治水検討委員会(住民会議)を母体とした淡海の川づくりフォーラム実行委員会を立ち上げ、現在、実行委員長。

委員長代理



瀧 健太郎(たき けんたろう) / 滋賀県立大学 准教授

川の日(7月7日)生まれ。大学院修了後、民間企業を経て滋賀県庁勤務(18年間)ののち現職。河川・流域政策の実務を長年にわたって担当した(淡海の川づくりフォーラム第1回~第6回まで事務局)。数多くの川や人との様々な出会いを通じ、川の魅力に取りつかれている。また、どんな川であっても、地域に愛される川こそが“いい川”だと信じている。

実行委員会(流域治水検討委員会(住民会議))

滋賀県の流域治水基本方針の策定に向けた「水害から命を守る地域づくり県民宣言」を提言した、流域治水検討委員会(住民会議)の中から、「住民が次の年も活動するのに元気が出るような場をつくろう」との議論があり2009年に発足。

大橋さん 杉本さん 松尾さん 中井さん 柴田さん 石津さん 菌黒さん 成宮さん 中村さん 多々納さん



9. 参加団体活動概要

A-1 滋賀県立大学 瀧研究室（球磨川）

活動のキーワード

- ① 球磨川 ② ヒアリング ③ 地域の宝

発表内容

令和2年7月豪雨によって球磨川が氾濫し、甚大な人的・物的被害をもたらしました。死者49名の被災要因を明らかにするため、現地住民へのヒアリング調査を行っています。

住民の皆さんには家族や親しい知人の死因や被災状況など「つらい」状況を語っていただきました。その中で住民の多くが自発的に球磨川やまちの魅力について語ろうとしました。

ほとんどのこの不思議な共通性の背景にどういったものがあるのか、紐解いていきたいと思えます。そして、住民の「球磨川への思い」に着目して、球磨川流域住民が望む復興まちづくりについて考えていきたいと思えます。

球磨川流域の復興を応援よろしくお願ひします。

活動中の川や水辺の名称

球磨川（熊本県八代市～水上村）

活動内容

寄り添い型ヒアリング調査

よいところ探しキーワード メモ！



球磨川流域における寄り添い型ヒアリング調査

滋賀県立大学 瀧研究室 藤原未奈

令和2年7月豪雨 球磨川流域犠牲者50名

熊本県球磨川周辺で令和2年7月豪雨により激しい洪水氾濫が生じ、50人の犠牲者を出すなど戦後最大の被害を受けた。球磨川は、肋骨状に支流が各所から流れ込み、上流部の森林地帯、中流部の盆地地域、下流部の渓谷地域の3領域からなり、この自然条件が水害のあり方に大きく影響する。

歴史的には交通・物流の拠点として活用された。近年は観光用の川下りやラフティングなどで川と人のつながりは深い。「尺アユ」といわれる大型アユも生息し、上流部の川辺川は「日本最後の清流」として、人びとの暮らしや産業に「近い川」と言える。



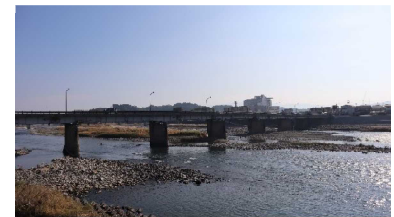
八代市坂本地区 (2020/10/2)



球磨村渡地区 (2020/7/26)



球磨川流域と主要河川、犠牲者が出た位置



普段の球磨川

ヒアリング調査 91名

目的
被災状況、犠牲者の被災要因の特定

2020年7月25日～28日、10月1日～2日、12月6日～10日、12月29日～2021年1月11日に現地調査を実施した。当時の浸水状況と犠牲者の行動について、残された家族・近隣住民に対して91人（計80人）の被災者を対象にヒアリング調査を行った。住民は被災状況に加え、球磨川への思いを語った。その思いを紹介する。

球磨川は
身体の一部

球磨川を恨みは
しません

癒しの場

球磨川に多くの
恵みを受けている

これからも何事も
なかったかのように
球磨川を愛する

「もとどおり」の復興
美しい球磨川とともに暮らしたい

「暴れ川」と
言われるのは
悲しい

自分たちの象徴

自然の川を残したい

鳥の天国

球磨川は悪くない

今はただ元の
生活に戻りたい

普段は穏やかで
いいところなのよ

活動のキーワード

- ① 環境整備 ② 木工教室

発表内容

平成17年7月に県のエコフォスターに登録。毎月25日を活動と決め、実施して参りました（瀬田川は10日が活動日）。長年の活動に周辺の人達も道路等の清掃に参加し、周辺が綺麗に整備されて来ました。これからも元気である限りこの活動を続けて行きたいです。

活動中の川や水辺の名称

高橋川、瀬田川の一部（大津市）

よいとこ探しキーワード メモ！



NPO法人瀬田川リバプレ隊

私達の故郷の川、瀬田川は母なる琵琶湖から流れ出る唯一の川で近畿地方1400万人余を潤す源の川です。

先人達は、洪水や浸水に苦しみながら、その自然の驚異に立ち向かってきました。その力強い精神力と熱意が今日も引き継がれています。

このことは先人たちが自然と共生してきた証であり、その尊さを教えてくれています。私たちは、びわ湖・瀬田川の恩恵と驚異を心に刻み、次世代に継いで行かねばなりません。

流域を含む河川の歴史、文化、環境等の諸問題について学習し、体験を通じて川に親しみ、明日の川づくりを発信する市民団体を目指しています。



NPO法人 瀬田川リバプレ隊の沿革

- 平成12年(2000年)9月
瀬田川改修100周年を機に 瀬田川リバプレ隊 発足
- 平成15年(2003年)3月4日
特定非営利活動法人 瀬田川リバプレ隊 として認定される
- 平成26年(2014年)3月28日
河川協力団体(近畿地方整備局 第4号)の指定を受ける

琵琶湖・瀬田川流域において
環境保全活動の取り組みで地
域社会に貢献

地域社会
への貢献

様々な活動主体や地
域住民、行政、企業
等との幅広い協働

他団体
と協働

楽しい
こと

琵琶湖・淀川水系の歴史・
文化・環境を楽しみながら
学び考え、流域の人々と幅
広く交流

リバプレ隊の取り組み

河川を愛する市民会議・現地見学会、コムラサキシギの植樹・管理、琵琶湖の水質調査、魚釣り大会、各種シンポジウムへの参加、瀬田川・高橋川の植物調査・清掃活動、ヨシ刈り、湖上ボート体験、リバプレ隊だよりの定期的な発行やホームページによる情報発信など様々な取り組みを進めています。



釣り大会運営支援
毎年秋に浜大津港で開催される企業のCSR活動の事務局として釣り大会釣りの大会を実施しています。

取り組みの発表
滋賀県やその他の団体が主催するフォーラムや研究発表会などで活動報告を行っています。

瀬田川(毎月10日)・高橋川(毎月25日)清掃活動

月に一回、瀬田川と瀬田川の支流である高橋川の清掃活動をおこなっています。



河川を愛する市民会議・現地見学会

河川を愛する市民会議は、地域の方や川を愛する人が年に一度集まり多彩なゲストをお招きして講義をしていただき、その後情報交換や想いを共有をする場です。



立命館大学びわこ・くさつキャンパスの学生を携りてマイクログラスティット回廊の調査

megumiで沖島訪問

A-3 滋賀大学「環境学習支援士」会

活動のキーワード

- ① 興味・関心・意欲をもってもらう。
- ② 体験（五感を使う）学習
- ③ 分かり易く、クイズを挿入し進める。

発表内容

小学四年生体験学習「やまのこ」事前・事後学習の出前授業
～山・川・びわ湖のつながり～

私は金勝山の森の未来館でやまのこのサポーターをしています。その中で、山での森林体験学習だけでなく、「山・川・びわ湖のつながり」について分かり易く伝える事前授業が必要ではないかと考えました。

如何に子どもさんたちに「山は緑のダム」という事に、興味・関心・意欲を持ってもらえる授業が出来るかと言うことに重点を置き、知り合いの元校長をはじめ事前学習に賛同する仲間の輪を広げながら検討を進めました。また湖南4市の教育委員会にも説明に寄せて頂き、各市は前向きにご対応下さいました。

事前授業を受けて下さった子どもさんや先生方の実際の山での学習態度がガラッと変わりました。それまでは「物見遊山」の感覚が見受けられましたが、前向きに興味深く自分のテーマを持って参加して下さいるのが、目に見えて分かりました。他のサポーターさん達からも「今日はどうしたことだ！」と驚かれるくらいの違いが分かるようでした。

事前学習後は先生方からも喜ばれ本番に期待されていることが分かりました。今後も自分のスキルアップをしながらお子さんたちと楽しい授業が出来ればと思っております。

活動中の川や水辺の名称

栗東市 金勝山 「森の未来館」周辺 （一級河川 金勝川）

活動内容

小学四年生体験学習「やまのこ」事前・事後学習の出前授業

よいとこ探しキーワード メモ！



滋賀大学「環境学習支援士」会は以下のような活動をしています

地域・学校・企業の皆さんへ環境学習支援活動の“出前”します！

滋賀大学環境シンポジウム 年1回開催

複合化する地球環境問題 と滋賀県の取組

地球温暖化の緩和と適応に向けて、必要なのは行動です

共催：滋賀大学会社連携研究センター

日時・場所：2019年11月24日(日) 滋賀大学大津サテライトプラザ

時節に合った環境問題をテーマに、対象者は、一般市民、学生、NPO/NGO、行政職員。関心の高い環境問題を掘り下げ、取組の交流、促進を目指します。

「未来のびわ湖人育成のための学習支援事業」

滋賀大学「環境学習支援士」会は、びわ湖の環境を学び、びわ湖を愛し、次の世代へ残していくために自分で考え行動する「未来のびわ湖人」へと成長していくための2つの出前事業に取り組んでいます。

この事業は、(公財)「びわ湖・淀川 こと も 水質 保全 活動助成」を受けて実施しています

展示会やフェスティバルへの出展・交流



学校支援メニュー(県教育委員会)



大津環境フェスティバル



琵琶湖環境ビジネスメッセ出展



草津市子ども環境会議エコ活動

学習支援事業1「びわ湖の昔、今、これから」



出前授業は、「びわ湖の昔、今、これから」

自分たちで考え、グループで話し合い自分たちで出来ること(グループ発表)

代表的な出前講座のチラシ紹介

1	あゆっこエコチャレンジ	子ども版環境家計簿 地球温暖化とその対策
2	びわ湖の環境について	びわ湖の昔、今から琵琶湖の未来を考える
3	琵琶湖大洪水と瀬田川洗堰について	明治29年9月の琵琶湖大洪水と洗堰の役割
4	流れる水はたらき、水生生物の観察	指標生物による河川の水質判定法の観察
5	自然観察会と温暖化防止の樹木役割	樹木の葉の玉手箱作りと木の高さや炭素保存
6	「やまのこ」学習支援事業	森林を学び、森・川・びわ湖とのつながりを学習します

学習支援事業2「身近な川の自然探検」



親子で金勝川の水質調査、水生生物採集



金勝公民館で生物同定と水質結果をまとめ、全班で発表

出前講座の活動紹介(地域・学校・企業)



小学校への出前授業



公民館活動への出前講座



レイカディア大学での出前授業



企業への環境出前授業

「やまのこ」学習支援 学習支援事業



森林の役割を学び、自分たちの役割を考える。



小学校内樹木調べ

お申込み・お問い合わせ

滋賀大学「環境学習支援士」会 〒520-0862 大津市平津 2-5-1 教育学部 425 号室

FAX 077-537-7821

Email: shienshikai@yahoo.co.jp

URL: <http://shienshi.com/>

活動のキーワード

- ① クラウド ② 川仲間 ③ 気づき

発表内容

2019年3月に始動した”Biwacompass”って、なんだろう？空に浮かぶ”クラウド”自由にカタチを変え、様々な課題に応えられる奥深さ。仲間が集い、好きな水辺遊びをやるだけで、びわ湖にとって大切なことは何か？に気付く。ここでは、自由で平等。みんなが”湖の子”それぞれが持つ琵琶湖への想い、行く先の違う羅針盤を持ち寄って、見せ合って、みんながベストを尽くして進んで行こう。長い時間が必要でもイイじゃないか。”できることから始めよう”ずっと子どもたちが遊んで、びわ湖に笑ってもらえるように

活動中の川や水辺の名称

大津市北比良付近の湖岸

活動内容

琵琶湖・河川に関する様々な課題を楽しく解決

よいとこ探しキーワード メモ！





Biwacompass

よりよい琵琶湖を
未来につなぐ羅針盤

びわ湖に想いをよせる仲間が集まり
知恵を活かし力をあわせ未来のびわ湖を紡ぎだす



活動内容は📱QRコード📱から確認



Biwacompass Facebook

ひとり、ひとりが羅針盤
みんなが湖の子、自由で平等
できることからはじめよう
子どもが遊び尽くせるびわ湖へ
びわ湖に笑ってもらいたい

A-5 河川管理パートナーの会

活動のキーワード

- ① 河川巡視活動 ② 不法投棄・散乱ポイ捨てごみ ③ 県・市・地域との連携

発表内容

「河川管理パートナーの活動から知る、河川環境の現状について」

河川整備計画のもとに、地域住民の参加による川づくりの3つの柱のひとつとしてつくられた河川管理パートナーは、河川の防災対策・ごみ対策を含めた維持管理や、県市町との連携と地域の仲立ち的役割も担っている。現在、私を含めて大津市では9名のボランティアが、河川管理パートナーとして活動しているものの、ほとんどこの存在は知られていない。そこで、河川管理パートナーの活動の目標と具体的な活動内容を紹介する。また、巡視活動を通じて、河川への尽きることのない不法投棄やプラスチック製ごみなどのポイ捨ての現状は看過できないと常に感じ、河川環境の悪化をどうしたら防げるのか、河川の価値を高めるためにできることを考えたい。

活動中の川や水辺の名称

一級河川の 長沢川、狼川、千丈川、国分川、高橋川、篠部川
各河川のおおむね起点から河口までの区域

活動内容

担当河川の状況、護岸、周辺環境、不法投棄・ごみ等を巡視により発見・把握し報告する。

よいとこ探しキーワード メモ！



河川管理パートナーの活動

～ 地域の河川と環境を大切にしたい ～



河川管理パートナーの会
松村 順子

◎ 河川管理パートナーについて

【概要】平成9年に改正された河川法に従い策定された「河川整備計画」において、住民と行政の協働で、地域住民の積極的参加により、地域の川を「ふるさと
の川」として育て維持管理することを目的とした「ふるさと川づくり協働事業」は、次の3つの柱で構成されている。河川管理パートナーはその一つ。

- ① 河川愛護支援 ② 地域活動支援 ③ 河川管理パートナー

【目的】河川管理パートナーが河川を巡視し状況を把握することで、流域の水害の防災対策や河川敷のごみ対策もふくめ、河川の安全と維持管理につなげる。

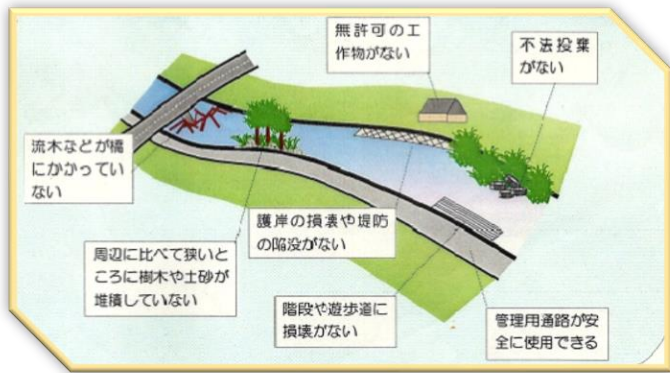
【現況】県内河川管理パートナー 51名 (砂防監視員兼任 38名)

大津市 9名 (砂防監視員兼任 7名) * 県より委嘱されたボランティア

【活動】月2回、担当の一級河川の巡視 (県管理区間の起点から河口まで)
チェック項目の状況の報告を月1回提出。活動費(交通費充当)支給あり
県市町との連携、県市町と地域の仲立ち的活動、情報発信など

県土木事務所・支所所属
河川管理パートナー数

	事務所	人数
1	大津	9
2	南部	6
3	甲賀	6
4	東近江	9
5	湖東	6
6	長浜	6
7	木之本	3
8	高島	6
	県全体数	51



【チェック項目】

護岸や堤防、階段や遊歩道の損傷・崩壊、管理用道路状況、河川敷の樹木や雑草の繁茂、土砂の堆積、流木、橋の現状、無許可の工作物、不法投棄物、散乱ごみ

担当例 (1人6~7河川を担当)



◎ 河川管理パートナー活動から知る、河川環境の現状

- ・河川内支障物・土砂・繁茂した樹木・雑草、無許可の工作物
- ・不法投棄物・自転車、家電、家具、ふとん、調理器具、一般廃棄物 (発見時の対応) 管轄への緊急連絡、大津市民通報システム、月報告書 * 管轄部局の選択が難しい
- ・散乱ごみ・ポイ捨てごみ・缶、ペットボトル、紙製プラ製容器包装

不法投棄・河川内支障物の対応数

年 度	大津市内 不法投棄	河川区域 不法投棄	河川内 支障物
H27	392	60	10
H28	339	97	15
H29	372	96	12
H30	369	228	46
R1	469	315	117

参考:河川管理パートナー・砂防監視員合同会議資料&大津市の環境

【川ゴミ増加の特徴】 習慣性、捨てる形の変化、大量・散乱化、違法性
【川ゴミが増える理由】

- ① 河川の構造
- ② 交通量・通行人数
- ③ 地域住民の川への意識
- ④ 自治会や河川愛護団体の美化活動の有無
- ④ 自治体の無関心
- ⑤ プラスチックと使い捨て文化の悪影響

◎ 川ごみを減らし、安全できれいな川にするための課題

- ① 地域の住民が川を意識し、より積極的に関わる機会をつくる。
- ② 地域で河川を監視する人をもっとふやす。
- ③ 継続した河川愛護活動や地域の美化活動が必要。
- ④ ポイ捨てする人たちの環境意識や自然への興味の向上。使い捨て文化の再考。



瀬田南小学校児童が作った、啓発ポスター

A-6 玉ーアクアリウム

活動のキーワード

- ① 明石川と共に ② 明石川を守る ③ 外来種の駆除

発表内容

今年度は「明石川と共に～私たちは明石川と共に生きる～」というテーマで活動しています。緊急事態宣言の時は初めてみんなと会えずに明石川で活動できない日々が続きましたが、メールで明石川の情報を共有し、会えなくても会えた感じがしました。解除後もコロナ禍で外来種が現れ、その度に早く気が付いて行動することで増やさずに済むことができました。新型コロナウイルスで大変だったけど、私たちにも明石川があったので乗り越えられました。くじけそうになって弱りかけた心も明石川が元気になってくれました。私たちにできることは、とても小さなことだけど、みんなで力を合わせて外来種駆除も新型コロナウイルスも乗り越えていきたいと思います。

活動中の川や水辺の名称

明石川（神戸市西区玉津町）

活動内容

明石川の生物多様性保全活動

よいとこ探しキーワード メモ！

